

越後謙信SAKEまつりを 終えて

越後謙信SAKEまつり実行委員会
(株)武蔵野酒造 代表取締役社長

小林 元

初めての「越後謙信SAKEまつり」が開催されました。このまつり開催の目的は「酒」を地域の宝として全国に発信をし、酒や地場産品が売れることの経済効果はもちろんのこと地域外の人が集まる事による外貨獲得や上越エリア全体の個性化の一躍を担うことであります。正に木浦上越市長が提唱している「上越ブランド」の創出です。

今回は十月二十八日・二十九日の二日間、高田本町商店街を歩行者天国にしての開催でした。二十八日、お昼よりテントの設置が始まりいよいよ戦闘開始です。合併した上越市及び妙高市のエリアから清酒製造蔵十九蔵、ワイン一社、ビール二社、とぶろく三社が出展をしたのを始め、二十を越える地域地場産品を中心とした品のブースも出展をしました。

お客様が本当に来ていただけるかとい

う不安を打ち消すように十五時の開始時間を待たず大勢の人たちで本町通は埋め尽くされました。五〇〇円で試飲グラスを購入頂くと各ブースのお酒が試飲出来るシステムにしたので本町通はグラス片手にほろ酔いの人々の行列となりました。各ブースでは期待はずれ(この大商いで商品の品切れが続発、補充に東奔西走しておりました。また、この日のために仕込んだ新酒越後謙信まつりSAKE)は二時間を待たず品切れとなり関係者をビックリさせました。

音楽にも酔っておりまして。この日はお天気にも恵まれ大きなトラブルもなく終了することが出来ました。

二日目は午後より雨の予報もありましたが朝から快晴となりました。この日は十時から十五時の開催です。若干、人出は昨日よりは少ない感じでありましたが日曜日と言うことでファミリーでの来場が目につきました。特設ステージでは地元ミュージシャンによるジャズ、津軽三味線、アカペラなどが披露され盛り上がりを見せておりました。昼前後には昨日同様の状態で食のブースでは品切れが続発してお客様からのクレームもありました。何とか天気も持ち、終了の十五時を無事に迎えることが出来ました。この二日間で約三二、〇〇〇人を集客することが出来ました。

今回は本町との連携も目的の一つになっており、オリジナルのお得な買い物券の発売、店の中に酒ラベルをおいてのラベラリー、それぞれの町内会での鍋などの企画もあり各店舗の売り上げアップにつながっているものと確信をしております。

来年は今年をベースにもっともつと経済効果が上がるとな仕掛けを考え開催する予定です。そのためには地域の宝をまず地元の皆様から評価いただき、誇りを持って全国に発信できるSAKE

まつりにレベルアップしなければいけません。皆様方への協力をお願いし報告とさせていただきます。



小林元さん